

桜陽高校だより

令和三年度の前半を振り返って

校長 笈川 巧



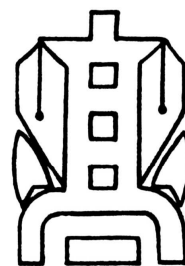
校 訓
賢く 強く 豊かに

学校教育目標

- (1) 研學に努め、知性を錬磨する。
- (2) 環境を整え、公共心を涵養する。
- (3) 責任を重んじ、道義心を涵養する。

すつきりとした青空が広がった七月九日、三年次生のルスツリゾートへの日帰り遠足を実施しました。見学旅行の代わりとして計画しましたが、帰校してきたバスを見ていた時、実施できて本当によかったとほつとしたことを覚えています。それまでは、ほつとする事よりも、ひやひやする事の方が多かったので、余計にそう感じたのかもしれない。三月に延期していたトマムリゾートへの見学旅行を、出発直前の占冠村でのクラスター発生を踏まえて中止と決め、体育館で生徒の皆さんに説明した時の重苦しい表情とは違い、バスから降りてきた三年次生たちは明るい笑顔でした。

さて、令和三年度は、四月八日に五クラス二百名の新入生を迎え、全校生徒六三二名でスタートしました。今年の入学式は卒業式と同様に、新入生とご家族から一名の方の出席という形としました。さらに、PTA会長の内藤様、桜陽会（同窓会）会長の稲垣様にもご出席いただき、新入生に対する歓迎と激励のご



目 次

- P1 学校長
P2 1年次
P3 生徒指導部
P4 教務部
P5～8 部活動報告

第103号

令和3年

9月29日発行

一瞬です！勉強や部活動に全力で励み、様々な行事を楽しんで一度きりの高校生活を有意義なものにしたいです。



不安定な状況の中、私達にできる事は限られています。ですが何が出来ないかを考えるより自分たちの力で何が出来るか、どうしたら特別な三年間を過ごせるかを考えられる高校生になって下さい！

この「清水ヶ丘」は、そんな高校生になるスタートダッシュを切れる一冊になっています。是非活用してください。『また、この挨拶の中に

ある「何が出来ないかを考えるより自分たちの力で何が出来るか、どうしたら特別な三年間を過ごせるかを考えられる高校生になつて下さい！」との言葉からは、一年次生でもできることはたくさんある、前向きに行動しようという強いメッセージを感じます。さらに、伊藤さんは、役員選挙の時の演説の中で、「全校生徒は生徒会の一員、みんな一人一人が主役になつてほしい」と訴えて執行委員長に当選しました。この言葉の通り、伊藤さんを初めとする執行部員は、全校生徒には人ごとではなく、自分のこととして、生徒会活動に関わつて欲しいとの思いを持って、生徒会活動に取り組んでいると感じています。

六月二十一日に緊急事態宣言が解除され、分散登校が終了して全員登校が再開となりました。目前に迫っていた7月開催予定の桜陽祭については、生徒会執行部員が長い時間をかけて感染対策等を踏まえた案を作り上げていましたが、限られた時間の中で、道教委の条件をクリアしながら、桜陽祭としてふさわしいものを開催できるか、安心・安全を保障できる企画ができるか、感染対策を全校生徒がきちんとできるように取り組むことができるか、地域の理解を得るための取り組みをすることができると、等について検討しました。結果として全てをクリアして、大丈夫だよと執行部員の背中を押してあげるのには難しいと判断し、残念ながら桜陽祭は中止となりました。八月二十日に夏休みが明けましたが、今後も感染対策を油断なく継続

しながら体育祭や見学旅行などの行事、部活動、進路活動に取り組んでいくこととなります。安心・安全と活動の両立は難しいところもありますが、制約があることに負けないで乗り越えていきましょう。そして一人一人が自ら考えて行動する意識を持ち、一人一人が主役の特別な高校生生活を創り出していきたいでしょう。最後になりますが、悩みや不安が

雑感

一年次主任 荒井 暁

ある時は、一人で抱え込まないで相談して欲しいと思います。互いに支え合いながら、桜陽高校一丸となつて、前に進んでいきたいと思つております。保護者の皆様のご理解とご協力をお願いいたします。また、併せて、保護者の皆様を初め、桜陽高校に関わる全ての方々のご健康を心よりご祈念申し上げます。

思い返すと、昨年、一斉の休校期間が長かったことを取り戻すべく、本校でも七時間授業など様々な形で授業時間を確保しました。様々な行事がなくなつたことで、思いの外、授業の進度を確保できたことを覚えております。本校を含め様々な学校では、オンラインを利用した学習ツールの確保に努め、それを家庭での学習にうまく利用して、行事や大会がなくなつた悔しさを進路実現に結びつけるような学生らの頑張りも見られた気がします。その結果が成績向上につながつたのでしょうか。しかし、勉強だけの学校生活に息苦しさを感じている生徒も少なくないのです。



ことです。

私が教員になつた二十年以上前の学校現場では、今よりも行事が多く、学習時間の確保、学習内容もルーズでした。その後、ITの広がりなど社会が変化し、社会が学校に求めるものが変わっていきました。行事の精選が進み、学習時間・内容の見直しも行われました。こうして作られてきた、本校を初めとする多くの学校における教育活動は、教科・科目の学習を中心に、様々な行事、部活動などを総合的に有機的に統合したものとなりました。授業、行事、部活動、ボランティア活動etc... どれも欠かせない、という事実が改めて気づかされました。頭を、体を、心を育むには、いろんな活動が必要で、そこには「奇跡」的なバランスが存在していたのです。明けない夜はありませんが、明けた世界が別のものになつて

とも起こります。いつか終わる「コロナ禍」の後に、私たちが新しい世界においても力強く、楽しく、生き生きと人生を送っていききたいものです。

生徒指導とは何か

生徒指導部長 古主 正信

今年度に入って、何度か全校生徒に直接話をしたり、担任の先生方にお話をしたり話をしても良かった。また、各先生方からも様々な話をしてもらっている。「バスの中でマスクを着用していない、大きな声で話をしている、飲食をしている」という苦情だったり、「Instagram や Twitter などの SNS に個人が特定できる内容のものを載せている者がいる」という注意だったり、「感染症対策、特に、マスク着用、昼食時の黙食」など今では常識となっている感染予防の話だったり、たくさんのお話をしてきた。生徒指導とはそれらをやめさせる（ルールを守る）ことだけが目的ではない。その時に、私はなぜそうしなければならないのかという話をしようという心がかけている。また、「○○するな」とか特別指導という話だけが生徒指導ではない。「○○することには、こういう意味があるんだ、○○する（した）ことって素晴らしいよな」というようないいわる前向きな声かけをすることも生徒指導ではないかと考えている。

す。そのために、今この時を、「雌伏（しふく）の時（力を蓄える時間）」として大切に過ごして欲しいと思います。



「生徒指導とは、一人一人の児童生徒の人格を尊重し、個性の伸長を図りながら、社会的資質や行動力を高めることを目指して行われる教育活動のことです。すなわち、生徒指導は、すべての児童生徒のそれぞれの人格のより良い発達を目指すとともに、学校生活がすべての児童生徒にとって有意義で興味深く、充実したものになることを目指しています。」（生徒指導提要より引用）とある。できていないことを指導することもありますが、できていることを褒めたり、もっと良くするための

方法を生徒と一緒に考えたりすることだ。そういう視点で考えると、まず生徒へ伝えたい。君たちはみんな素直であると思

う。○○しなさいと言え、基本的には○○しようと努力をする。先生の顔を見たら、慌てる者もいるが……。いつも思うことだが、先生たちの目が届かないところ、例えば学校外や学校内でも先生方のいない場所・時間帯などの君の言動はどうだろうか。そこでの振る舞いが君の本当の振る舞いだ。そこで気を配ることができたり、自分勝手な行動を自制したりすることで、他人からの信頼を得ることができるようになる。誰が見ていようがいまいが、大人に言われたことを自分の頭で考えて、色々な場面で実践することが大切なのである。例えば、テスト監督の時にあるクラスでこんなことがあった。私は何も言わなかったのにテスト開始5分前になつたら、クラス全員が勉強道具をカバンの中にしまつて準備をしたのである。今までに私は経験したことがない。こちらが言わなければいつまでも勉強をしてテストの準備をしない。しまいなさいと言ってもしまわずに大きな声で注意をするなんてこともあった。私はテスト用紙を配布した後、「君たちは素晴らしい」と褒めた。そのクラスの生徒にとつては当たり前のことであったので、ポカーンとしていたが、「その姿勢をずっと続けて欲しい。」と話したところでチャイムがなりテストが開始された。さあ、君たちは何を思う？ 当たり前のことを当たり前にやることは簡単なことではない。

そんなことに力を注ぎ、規律性や協調性を身につけて本校を卒業して次のステージに行つて欲しいと願っている。

保護者の方へ。上記のように、普段は○○するなという話をする機会の方が多いように思います。そこは反省するべきだと思いますが、同時に生徒には、規律性や周囲に気を配るなど人として基本的なことを身につけて欲しいと考えています。学校においても指導させていただきませんが、ご家庭においても少しでもそんなお話をいただければと思います。また、何か疑問や困りのことがありましたら、遠慮なく学校へ連絡ください。お子様が、本校を卒業するときに人間的に成長したなあと考えるよう学校としても努力します。どこに行つても可愛がってもらえる生徒を育てていきたいと思つていますので、ご協力お願いします。

最後になりますが、学校生活も一人一人の努力や行動によって成り立っています。新型コロナウイルスが未だ収束も見込めない中で、学校行事等も制限のある中でできることを行っていく必要があります。この生活の中で、今まで以上に周囲に気を配りながら、まずは感染予防を徹底していくことが大切だと思います。ご協力お願いします。



目標を定める意味

教務部長 林 誠



訪れたことのない場所でも何の手がかりもなく目的地に時間通りに到着することは可能でしょうか。普通に考えればそれがとても困難なことであることがわかんと思います。

学習することも同じことです。何の目標もなく行っても学んだことが定着することなく時間だけが過ぎていき、成果を残すことができないことが続いていきます。

三年次の皆さんにとっては卒業後の進路を決定する試験等が既に始まっています。具体的に試験までの残り時間を意識して学習、面接練習、小論文を書く練習をできるだけ行っていくください。毎年のようにこの時期の受験生は「勉強しているのに成績が上昇しない」という苦しさを経験しますが、それは当たり前のことです。受験直前に努力を全くしない人はいません。誰もが努力しているのです。その状況で成績を上昇させようとするのですから、簡単に伸びるはずがないのです。他の誰よりも努力しているくらいの頑張りが必要なのです。

さて、受験までまだ時間があると

考えている一・二年次の皆さんは毎日何となく過ごしていてもよいのでしょうか。何も考えずに生活している人は一日一日と差をつけられていくことに気がつきません。三年次になって受験の準備を始める時点で大きな差がついており、挽回不可能となってしまうのです。

小さい頃からなりた職業があるのであれば、その職業に就くために必要な資格、学歴を調べましょう。そして、進学先へ進むために必要となる学習ができていくかどうか、模擬試験などを活用して把握してください。

まだ何も方針が決まっていなくても進学したいと考えているのであれば、大学等のオープンキャンパスや、Webによる案内などを通して進学先に進んだ自分の姿をイメージするところから考えてみるのもよいでしょう。進路先とその学校の受験教科を調べる中で自分の得意教科を中心に学んでいける進学先を選択するという方法もあります。

三年次になってから進学先を考えても大学進学を実現している先輩はたくさんいると考えている人もいます。確かに進路未決定のまま卒業している人は多くありません。しかし、全員が第一希望への進路実現を果たしたわけではありません。

受験勉強を進める中で希望を変えざるを得なかった人、受験の結果

が思うとおりにならず、第二志望への進学となった人もいます。では、目標を決めて努力することと何となく努力をすることの違いはどこに現れるのでしょうか。

それはやるべきことを具体的にできることです。何となく学習するのではなく、この教科のこの部分、問題集の何ページ分と日々の学習においてやるべきことを具体化して臨むことができることです。そして、目標実現ができるかできないかの距離感をつかむことができることが大きな違いです。

一方、目標を定めずに行う学習は自分への甘えが出て、到達点を低い段階にとどめてしまいます。

到達点が低い段階ならばおのずから選択肢が少なくなり、ただ流されるまま進路を選択することとなります。結果、進路先でも意欲的に学んでいくことができなくなってしまうのです。

ただ、目標を定める際に注意しなければならぬ点があります。それは競争相手が全国の範囲であるということです。高校入試であれば後志学区だけが競争の範囲となり、入学試験の倍率も二倍になることはまずありません。

しかし、大学入試では三倍を超える倍率となるのが普通です。高校入試よりも遙かに厳しい試験となるのです。

桜陽高校では文武両道を掲げています。そして、三年次まで部活動に全力で取り組み、そのあと受験勉強を頑張り第一志望を実現した先輩が多くいます。それは、部活動で日々

培った「目標を決めて努力を続ける」ことを、部活動終了後に、学習面につなげることができたからです。

部活動が続けた分、学習中心で頑張ってきた人との成績の差がついてしまった状態で受験勉強が始まります。その差を詰めるため、空いている時間を活用して暗記する学習を行うなど、自分で工夫して学習することができるようになります。その結果、秋の時期から徐々に成績の伸びを実感できるようになり、試験の時期に自分の状態をピークにして目標を実現することができたのです。

終わりに、数年前に桜陽高校を卒業し、大学の看護学科へ進学した先輩が語った言葉を紹介します。

「大学に進んで高校時代自分がどれだけ甘かったか知った。今の方が高校の時より遙かに勉強している。」

次の進学先が決まればそれで終わりではありません。次の目標を定め、努力を続けることが求められるのです。